

学校だより 10月号

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

平成30年10月1日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

URL

<http://koya-e.konosu.ed.jp>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp



【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



「思いやり」は「気遣い」「気配り」「心配り」から
～「思いやりキャンペーン」の中で子どもたちに教えたこと～



校長 池澤 道弘

つい先日まで記録的な猛暑が続いていましたが、近頃は、朝夕は涼しいというより肌寒さを感じる日も増えてきました。忙しい日々を過ごしていると忘れがちになりますが、季節は確実に移り変わり、秋が深まっていることを感じます。

さて、本校では特色ある教育活動の一つとして、いじめのない安心・安全な学校生活が築けるよう、思いやりの心をもった人間関係を形成し、いじめを許さない自主的・実践的な態度を養うことを目的に「思いやりキャンペーン」を実施しています。キャンペーン期間は9月11日から10月11日です。キャンペーンが始まった9月11日には、児童会や6年生が中心となって、①児童が選ぶ「うれしい言葉」「悲しい言葉」の発表 ②マスコット賞の発表 ③思いやり大使の任命 ④「思いやり宣言」の発表 ⑤「のすっ子宣言」の確認など、取組内容を紹介する集会を開きました。手前味噌で恐縮ですが、この「思いやりキャンペーン」は、本校独自の素晴らしい取組であり、大きな成果も期待できる取組ではないかと思います。ただ、このキャンペーンをより充実させるためには、児童への働きかけだけでなく、私達大人の行動がカギになるのではないかと思います。

私はかつて3年間ほど川口市に勤務していましたが、それまでは職場が鴻巣だったので通勤手段は車でしたが、この3年間は電車通勤でした。初めは戸惑いも多々あったのですが、慣れてくるとそんなに苦ではなくなり、すし、「読書の時間ができる」「運が良ければ寝て帰れる」「ガソリンの高騰を気にしない」など新たな発見も与えてくれました。

反面、マイナスの発見もありました。それは、実に多くの人々が「周りの人に思いやりの心をもたない」ということです。ほとんどの人は、電車から降りる時「すみません…降ります」などの声もかけず、人を物体のように押しのけていきます。また、降りる時も乗ってくる時も大きなバックなどを肩にかけたまま、荷物が人にぶつかっても一言もない人がたくさんいます。高校生などの学生や若い会社員などもいましたが、その多くは立派な社会人でした。

でも、よく考えてみると車通勤でも似たようなことはありました。細い道なのに、どこですれ違えることができるか考えることなく平気で進んできて、「後はそっちが考えて」とでも言わんばかりに止まっている対向車、道路のど真ん中で右折のウインカーを出し、後続車を全部ストップさせている車などなど…ほんのちょっとした気遣い、ほんのちょっとした思いやりがあれば、気持ちよく通勤できるのになあと思うことは少なくありません。

5月の全校朝会では、埼玉県を代表する詩人宮澤章二さんの詩「行為の意味」から『心』は見えないけれど『心遣い』は見える。『思い』は見えないけれど、『思いやり』は見える。』という部分を児童に紹介しました。ご存知のように東日本大震災の後、テレビのCMで頻繁に流れ、被災地の方々に勇気を与えた言葉です。

「思いやり」の心を表していくには「気遣い」「気配り」「心配り」が大事だと思います。冒頭では、通勤の例を紹介しましたが、私達の日々の行為の中にも、ほんのちょっとした「気遣い」「気配り」「心配り」が必要な場面も多々あると思います。子どもは、私達が思っている以上に大人の言動をよく見ているものです。どんなに働きかけても、大人がその範を示さなければ、効果は期待できなくなってしまいます。

6月の学校だよりでも触れましたが、私はさまざまな教育活動の中で「思いやりの心」を培っていきたいと考えており、この「思いやりキャンペーン」は絶好の機会であると捉えています。教職員には私達大人も「気遣い」「気配り」「心配り」を意識して、互いが気持ちよく生活していけるようにしましうと伝えました。皆様も心に留めておいていただければ幸いです。

